

対象	小学校高学年以上
教科	道徳・特別活動
該当 単元	小学高学年・中学校 1-(2) 希望・勇気 努力・強い意志 4-(3) (4) 役割と責任の自覚 2-(3) 信頼・友情 特活：朝N I E
教科書	
掲載日	2017. 1. 29. 朝刊 12版 1面

試験飛行で浮かび上がる名古屋市立工業高の生徒らが製作した飛行機＝28日午後、津市の香良洲飛行場で（大橋脩人撮影）



問1：「日本の飛行機の父」と呼ばれる人の名前は何というでしょう。

()

問2：サブ見出しに「飛行成功」とありますが、写真では空を飛んでいる感じがしません。どのような飛行に成功したのでしょうか。

数秒間、機体を浮かせる

()飛行で、

()回目の挑戦で()メートルほどの高さに浮上し、約()秒間、

()メートルにわたって宙を舞った。

問3：インタビューに答えた山本海翔さんがこの飛行機を作成するのに、難しいと感じていたのはどんな作業でしょう。

()

発展：この記事を読んで感じたこと、考えたことを書きましょう。

Three empty rectangular boxes for writing answers to the extension question.

高校生の夢 飛んだ

名古屋市立工業高の生徒らが「日本の飛行機の父」と呼ばれる宮忠八(一八六六～一九三六)の図面を基に製作した飛行機の試験飛行が二十八日、津市香良洲町の民営飛行場であり、数秒間浮かせるジャンプ飛行に成功した。エンジン式有人機の飛行は高校生では日本初の快挙。操縦は飛行場を経営する武鹿照英さん(六三)が務め、五回目の挑戦で一桁ほどの高さに浮上。約五秒間、七十センチにわたり宙を舞った。同好会員の山本海翔さん(一七)は、両翼を接合する難作業を振り返り「夢に向かって諦めず努力することの大切さを学んだ」と語った。

名古屋市立工高 自作機の飛行成功

【活用にあって】

道徳が教科として扱われるようになるかも・・・という情報は、教師にとっては大いに戸惑いを感じさせることでしょう。今後が気になるところです。

学校現場では一般的に資料を活用して、自分や自分たちの生活と結びつけながら道徳的価値に迫ろうとし、その最後の段階に教師の説話を入れ、まとめていく授業が一般的だと思います。

こうした記事は道徳の授業の中で、「資料」としても「説話の材料」としても活用できるのではないのでしょうか。また、朝の会や帰りの会における教師の講話にも活用できると思います。

解答例

問 1 : 二宮忠八

問 2 : ジャンプ ・ 五 ・ 一 ・ 五 ・ 七十

問 3 : 両翼を接合する作業

発展 : 偉大な先人の図面を基に、公立の高校生たちが飛行機を製作し、飛行を成功させたという事実からめた感想や考えを具体的に書けているとよいですね。